

本研究は横浜新緑総合病院倫理委員会で審議され、横浜新緑総合病院院長の許可を得ています。倫理委員会では「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、外部委員を交え、倫理的・科学的観点から審査を行います。

1. 研究名称

急性期病院の胃病等におけるノロウイルスアウトブレイクの要因分析と対策の検討

2. 研究者氏名

佐藤 由有子

3. 対象となる方

2025年5月5日～21日までの期間に急性期病棟入院中で感染性腸炎の発症者16名（患者6名、職員10名）

4. 研究の背景・目的

ノロウイルスは極めて感染力が強く、医療機関での発生は診療機能の停止に直結する。先行研究では手指衛生が説かれている。手指衛生は感染遮断の要であり、WHOの「手指衛生多角的戦略」では教育だけでなく、システム変更や評価・フィードバックの重要性が強調されている。しかし、多忙な急性期病棟では遵守率の維持が困難な場合が多い。当院の事例も、報告遅延、清掃不備、動線問題が複合的に絡み合っており、これらの要因を整理・分析することは、同様の課題を抱える他部署や他施設にとって極めて重要な示唆となる。ノロウイルスによる集団感染事例の要因分析を行い、迅速的なICT介入および手指衛生を中心として行動変容が終息に与えた影響を検討する。

5. 研究の方法

- 研究デザイン：後ろ向き事例研究（記述的研究）

- 研究期間：2025年5月5日～2025年5月21日

- データの収集内容・収集方法

症例データ：感染管理システムより発症日、職種、症状、ノロウイルス抗原迅速検査結果を抽出

要因データ：ICTによる現場調査記録、環境清掃チェックリストの精査、直接観察法による遵守率（介入前45%、介入直後、6・9・12月の推移）

- データの分析方法

時系列分析：流行曲線（エピカーブ）を作成し、5日の初発から16日の最終発症、21日の終息宣言に至るまでの経過を可視化する。

要因分析：抽出された4つの要因（報告遅延、清掃不備、手指衛生等）が、どのように感染伝播に寄与したかを構造化して分析する。

6. プライバシー保護について

- 個人情報の保護と匿名化

収集したデータから氏名、生年月日、IDなどの個人情報を削除し、連携不可能匿名化を行う。症例提示の際は「患者A」「職員B」等の記号を用い、特定の個人が推測されないよう配慮する。

- 不利益の防止

- 本研究は後ろ向き調査であり、対象者への新たな侵襲や経済的負担、診療上の不利益は一切生じない。また、介入過程での手指衛生遵守率の公表においても、個人や特定の職員を非難する目的ではなく、組織的なシステム改善の基礎資料としてのみ扱う。

#### 7. 本研究に関する問い合わせ先

本研究に関するご質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。  
また、資料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに資料・情報の利用や提供は致しませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお研究結果が既に医学雑誌への掲載や学会発表がなされている場合には、データを取り消すことが困難な場合もあります。

○研究内容に関する問い合わせおよび資料・情報を当該研究にもちいられることについて拒否する場合の連絡先

担当者： 横浜新緑総合病院 感染対策室 佐藤由有子